

NPO そばネット埼玉

第1回通常総会 & そば打ち技術交流会開催される

平成18年5月21日(日)

初夏の太陽に新緑が輝く見沼グリーンセンター(さいたま市)で、「NPO そばネット埼玉」の第1回総会 & そば打ち技術交流会が開催されました。

昨年10月に産声を上げたばかりの「そばネット埼玉」は、今年1月に「2006全麵協素人そば打ち段位認定さいたま大会」を開催し大成功を収めました。

新年度に入り、第1回の通常総会を開催するに当たり、記念講演として全麵協をはじめ、そばによる地域づくりなど全国規模で活躍をしている唐橋 宏氏を招聘し、併せて、そば打ち技術交流会を開催したところ、予想を上回る会員70名の参加により、楽しく華やかな交流会となりました。

以下に当日の様様を紹介します。



第1回通常総会開会に当たって、阿部代表理事があいさつをする。

「多くの手打ちそば愛好家・団体を結集して、人の輪を広げ、手打ちそばの健全な発展に寄与するもの。」

「この法人は、会員のそば打ち愛好家団体の活動を制約するものではなく、むしろ、それぞれの団体が個性豊かな活動ができるよう支援するもの。」

など、そばネット埼玉設立の趣旨を述べ、多くの会員の参加に感謝の意を表した。



総会会場は、ご覧のとおり立ち見も出るほど多くの会員が出席し、真剣に執行部の説明に聞き入っていました。

(総会の資料はこのホームページ上からご覧いただけます。)



出席した副代表理事の紹介
 右から、加藤 憲（さいたま蕎麦打ち倶楽部名誉会長） 鈴木銚三郎（分桜流・彩次郎蕎麦打ち会副会長（会長野本氏の代理）） 中村正純（熊谷そば打ち愛好会会長）



議事に先立ち、議長を選出する。
 議長は、個人会員から小山周三氏が選出された。
 小山氏は、さいたま蕎麦打ち倶楽部会員でもあり、現職は西武文理大学教授だそうです。



17年度事業報告、18年度事業計画、役員補充案件を菅野理事、17年度収支報告及び18年度収支予算を田中理事が説明し、いずれも原案通り可決された。



稲垣、志田両監事の監査報告がなされた。



総会終了後、全麵協全国審査員、会津そばトピア会議議長で、会津桐屋当主の唐橋宏氏の記念講演を同会場で行う。



プロジェクターを使ったビジュアルな講演を参加者は真剣に聞き入っていました。
 講演内容は、「そばはみんなを元気にする」と題して、“そばによる地域づくりの実践”について、自らの体験を基にしたお話を熱く語られました。



記念講演後、唐橋氏のそば打ちデモとなりました。
会場に設けられた打ち台を遠巻きに、日本を代表する一流のプロの技を見学しようと真剣な眼差しを向ける参加者。



この日は、好天で温度も高い上に、参加者の熱気で、エアコンもあまり効きません。
唐橋氏も汗をぬぐいながら文字通りの“熱演”でしたが、プロの卓越した技の一挙手一投足にため息が漏れます。



デモの後は、会員が準備した“特製もりそば”を全員が美味しくいただき、午後からは、これも皆さんお待ちかねの「そば打ち技術交流会」となりました。
唐橋氏の右の女性は来賓としてお出でいただいた、第8代全日本素人そば打ち名人大会名人で全麺協地方審査員、寺西恭子様です。



交流会は、会場に打ち台10セットを用意し、希望者20人を2班に分けて実演を行い、唐橋氏と全麺協地方審査員8人が各台を巡回して指導する方式です。
唐橋氏は、各実演者を丁寧に回り、直接手を取って指導するなどきめ細かい対応に参加者は感激でした。



そば打ち技術交流会の終了後、立食による懇親交流会が行われ、名刺交換をしながら会員相互の親睦を深めました。



最後に、唐橋氏から、そば打ちの楽しさ、奥行きを伝えられるとともに、そばネット埼玉の発展を期待するエールを送られ、充実した一日が終了しました。

街ふれあい

そば打ち技術交流

◆北区◆ プロの職人からそば打ち技術を学ぶ「そば打ち技術交流・懇親会」が21日、見沼のさいたま市見沼グリーンセンターで開催された。

昨年10月に設立されたNPO法人「そばネット埼玉」(阿部成男代表)が、会員の交流を深め、そば打ち技術の向上を図りたいと企画。会員280人のうち

80人が参加した。

福島県会津若松市内でそば屋「会津きり屋」を経営する唐橋宏さん(58)の指導の下、そば打ちを行った。

唐橋さんは「包み込むようにやさしく練り上げて『力を抜いて。無理に延ばさない』などと熱心にアドバイスを。会員たちは、額に汗を浮かべながら、一生懸命そばを打っていた。

埼玉

【支 局】
さいたま